

J. Parker Valentine

1980 オースティン生まれ、現代ロサンゼルス在住

2002 オースティンテキサス大学、美術制作、美術史専攻 BA

2007 サンフランシスコ・アート・インスティテュート、ニュージャナル MFA

個展

2008

「J. Parker Valentine」 リサ・クーリー、ニューヨーク

2010

「Cut-Outs-Inter-Sections」 ピープ・ホール、ミラノ

「The Perfect Landscape」 サポーテコロペス、ベルリン

「J. Parker Valentine」 リサ・クーリー、ニューヨーク

「J. Parker Valentine」 タカイシイギャラリー、京都

2012

「Who Made Who」 サポーテコロペス、ベルリン

「Who Made Who」 ギャレリ・マックス・マイヤー、デュッセルドルフ

2013

「Failure Envelope」 アートペース・インターナショナル、アーティスト・イン・レデジンス・プログラム、サン・アントニオ

2014

「Topo」 ランゲン財団、ノイス

「Node」 MISAKO & ROSEN、東京

2015

「J. Parker Valentine」 ギャレリ・マックス・マイヤー、デュッセルドルフ

2016

「Full of Holes」 ザ・ジュアン&パトリシア・ヴェーガズコレクション、ブエノス・アイレス

「Like Jungle music in the Dead of Night」 パーク・ビュー、ロサンゼルス

2018

「J. Parker Valentine」 ギャレリ・マックス・マイヤー、デュッセルドルフ

2019

「Special Interests」 クリーグ、ハッセルト（ベルギー）

「Skin of Paradise」 ポールソト/パークビュー、ロサンゼルス

「黒のり Kuro nori」 MISAKO & ROSEN、東京

2020

「Year of the Sphere」 ポールソト/パークビュー、ロサンゼルス

2021

「The Bony Orbitm」 フスフト、ワルシャワ

2022

ギャレリ・マックス・マイヤー、デュッセルドルフ

2024

「Hypnic Jerk」 MISAKO & ROSEN、東京

Francis Irv (予定)

グループ展

2008

「Creswell Crags」 リサ・クーリー、ニューヨーク

2009

「クリストファー・オール、Jパーカー・ヴァレンタイン&レジ・ファン・ランクヴェルト」 フロント・ルーム、セントルイス現代美術館、セントルイス

「If the Dogs are Barking」 アーティストスペース、ニューヨーク

「Retractions」 ルート・ディビジョン、サンフランシスコ

2010

「オーガニック リレーションシップ」 ザ・センター・フォー・コズミック・ワンダー、東京【巡回：ザ・センター・フォー・コズミック・ワンダー、大阪（2011）、京都精華大学（2011）】

「36 Dramatic Situations」 Louis V E.S.P.、ブルックリン、ニューヨーク

「Substance Abuse", コリン・ホイターキュレーション」 レオ・ケーニッヒ INC、ニューヨーク

2011

「荒木経惟 ケリス・ウィン・エヴァンス、法貴信也 Jパーカー・ヴァレンタイン」 タカイシイギャラリー、東京

「Alice Channer, Jamie Isenstein, J. Parker Valentine」 リサ・クーリー、ニューヨーク

「ニュー・アート・イン・オースティン：Fifteen to Watch」 オースティン美術館、オースティン

2012

「Today」 リサ・クーリー、ニューヨーク

「Evidence of Houdini's Return」 アートハウス・ジョンセンター、オースティン

2013

「First Look Online Exhibition」 コラボレーション；イアン・ローゼン&レイ・プレイザー、ニュー・ミュージアム、ニューミュージアム

「SPUT」 ザ・ガーデン、ビルヌス、リトアニア

「BRACCIA」 コラボレーション：あれっサンドロ・ビッジオ、ミュゼオ・マリーニ、フローレンス

「Reds and Triangulars」 ニュー・ミュージアム、ニューヨーク

「囚われ、脱獄」 XYZ Collective、東京

「Sister Sarah's Theme」 プリズム、ロサンゼルス

2014

「The Gardens of Sardinia, Cyprus, and Jerusalem」 マン・ヌオロ、サディニア

「After Walker Evans」 フォートワース現代美術館、フォートワース

「Go and Come Back」 パラダイス・ガレージ、ロサンゼルス

「ザ・ジョン・リーペンホフ・エクスペアリエンス」 ナイト・ギャラリー、ロサンゼルス

2015

「I'm sorry, please talk more slowly -ヒカリエ Contemporary Art Eye vol. 1」 8/02 CUBE 1,2,3, ヒカリエ、渋谷

「Towers of Dub (Live Orbient 3.9.93)」 トーマス・ダンカン・ギャラリー、ロサンゼルス

「An Account of Discovery and Wonder; Detailing intrepid exploration, inevitable peril and infallible resolve, as evidenced by relics, replicas, artifacts, counterfeits, documents, samples, souvenirs, ephemera, scraps and residue」 1857、オスロ

「Ceramics and Graphite」 チャート、ベルリン

「Figure 8」 ラーマー、ドッド・スクール・オブ・アート、ジョージア大学、アテネ

2016

「Art is Not a Competition 絵画の旅 06-'16 curated by Misako & Rosen」 レドリング・ファイン・アート、ロサンゼルス

2017

「Body Without Organs」 オチ・プロジェクト、ロサンゼルス

「Pe´lamide (curated by Lilou Vidal)」 バーバラ・グラッドストーン、ベルギー

「99 Cents or Less, (curated by Jens Hoffman)」 デトロイト現代美術館、デトロイト

2018

「The Earth Axis Tilt Shifts」 ポールソト／パークビュー、ロサンゼルス

2019

「Automatic Door」 ポールソト／パークビュー、ロサンゼルス

「Elizabeth Macintosh, J. Parker Valentine, Natalie Smith」 U's, カルガリー

2020

「La Hanger」 ラ・メゾン・デ・ランデヴァー、ブリュッセル s

2021

「Eureka!」 ヴィンヴィン、ウィーン

2022

「To Lean Into」 Ceysson & Benetiere、ニューヨーク

「ナチュラル・ファンクション」 スパイラルガーデン、東京

2024

「Models」 ベルアミ、ロサンゼルス